

第2章 共通教育プログラム

I. 共通教育プログラムとは

共通教育プログラムは、國學院大學のすべての学生にとって必要な学修目標を満たすために設けられた、全学共通のカリキュラムです。学生が身につけるべき基礎的な知識・技能、さまざまな学問の知を、以下に示すような学修目標を目指して、体系的かつ厳選して編成してあります。これらの科目を主体的に学ぶことによって、一個の社会人としての素養（「市民的教養」）を涵養することを目指しています。

共通教育プログラムと専門教育科目との有機的な学修によって、4年間の学士課程教育の教育目標が実現されることが期待されています。

【学修成果参照基準】

ディプロマ・ポリシーに相当する「学修成果参照基準（RS：Reference Standard）」を以下のように定め、卒業要件 26 単位で修得されるべき学修成果目標を明示しています。

A 知識・技能

- (RS-A1) 建学の精神と神道精神を理解し、日本文化を説明できる。
- (RS-A2) 日本語を正確に読み、表現することができる。
- (RS-A3) 1つ以上の外国語を用いてコミュニケーションすることができる。
- (RS-A4) コンピュータを活用して学修することができる。

B 思考力・判断力・表現力

- (RS-B1) 数値に基づいて思考し、論証することができる。
- (RS-B2) 客観的事実に基づいて論理的に思考し、説明することができる。
- (RS-B3) 俯瞰的視点から思考し、自己の学びを相対化することができる。
- (RS-B4) 社会のルールを理解することができる。

C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

- (RS-C1) 他者の価値観を尊重し、異文化を受容できる。
- (RS-C2) 協働して最適な解を導き出そうとした体験を持つ。
- (RS-C3) 主体性をもった市民としての協働意識、参加意識を身につける。
- (RS-C4) 身体的または精神的な負荷を意欲に転化することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

「学修成果参照基準」に定められた12の能力を身につけるために、下記の図表に示された4つの科目群（國學院科目群、汎用的スキル科目群、専門教養科目群、総合科目群）から構成される教育課程を設けています。各科目群の教育目標に応じた重点箇所を、以下に◎及び○で示します（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）。また、☆は履修方法による専門教養科目群固有の学修成果目標を示しています。

科目区分		学修成果参照基準（RS）											
		知識・技能				思考力・判断力・表現力				主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4
國學院科目群	神道と文化	◎											
	國學院の学び	◎											
	日本文化を知る	◎											
	Japan Studies	○		○						◎			
汎用的スキル科目群	日本語		◎										
	英語			◎						○			
	数的推論					◎							
	情報処理				◎								
専門教養科目群	人文学						○	☆		◎			
	法学・政治学 A							☆	○	○		◎	
	法学・政治学 B					○	◎	☆	○				
	経済学 A					○	◎	☆					
	経済学 B						◎	☆				○	
	自然科学					○	◎	☆					
総合科目群	導入科目		○				○				◎		
	外国語			○						◎			
	スポーツ科学					○					○		○
	キャリア形成支援								○		○	◎	

【カリキュラム構成及び科目群・各科目の教育目標】

1. 國學院科目群

國學院大學の建学の精神、学問的伝統に触れ、神道精神の本質と國學院大學が培ってきた日本研究の成果と学問的伝統を学び、日本文化への理解を深める科目群です。これを通じて日本人としての主体性、大学に対する帰属意識を涵養します。

神道と文化

本学の建学の精神であり、日本文化の基層である神道の精神を理解する。あわせて、本学の歴史と学統への学びを通じて、本学学生としての自覚を獲得する。

國學院の学び

國學院大學の歴史、学問的伝統を具現化した諸学問を学ぶ。

日本文化を知る

日本の伝統文化の歴史的形成と特質、現代における意義を学ぶとともに、伝統文化の実践を体験する実技体験型授業を通じて、日本文化の諸表現形態を体得する。

Japan Studies

日本の文化、社会、歴史等を英語で学ぶことによって、日本を相対化する視点を獲得するとともに、グローバル環境において日本文化を発信する視点と技能を身につける。

2. 汎用的スキル科目群

大学における学修の基礎となる技能、グローバル環境で生きするのに必要な汎用的言語能力、情報処理能力、数学的論理構成力を身につけ、それらを活用する能力を獲得する科目群です。

日本語

大学におけるすべての学修の基礎となる日本語理解力、表現力、語彙力、文章構成力等を研磨し、適切な日本語コミュニケーション能力を獲得する。

英語

大学の学修の基礎技能であり、グローバル化する知識基盤社会の共通言語である英語力の習熟を目的とし、4技能修得によって汎用的英語力を高める。

数的推論

大学の学修の基礎技能であり、社会生活及び職業生活において不可欠な数学的論理の汎用的応用の方法、数的論理を用いて現象を数的に論証する方法を修得する。

情報処理

大学の学修の基礎技能であり、社会生活及び職業生活において不可欠な情報機器の操作、情報ネットワーク、各種ソフトウェアの実践的活用法を修得する。

3. 専門教養科目群

学部専門教育科目の基礎部分を、他学部学生が「専門教養」として体系的に履修する科目群です。これにより達成されるべき教育目標は次のとおりです。

- ① 学問的課題に対する分析や思考方法の多様性を認識できる。
- ② 人間と社会に対する複眼的思考方法が獲得できる。
- ③ 客観的な事実に基づく合理的な思考方法が獲得できる。
- ④ 社会への参加意識、協働意識を獲得できる。
- ⑤ 自分が専攻する学問分野の知を相対化できる。

パッケージ名

人文学、法学・政治学A、法学・政治学B、経済学A、経済学B、自然科学

4. 総合科目群

学士課程教育の導入学修、異文化への理解を促す外国語学修、スポーツ・身体活動の理論と実践、学生から社会人への展望を得るキャリア学修を通じて、学士課程教育と社会的教養の基礎を身につける科目群です。

導入科目（人間開発学部のみ履修可）

調査、発表、討議といった学問の基礎的スキルを学ぶとともに、実践的活動を通して主体性や協調性を涵養し、大学における修学の基礎力を培う。

外国語

英語を除く外国語の導入学修を通じて、異文化を理解する手がかりをつかむ。一部の外国語については、発展的学修を行い、当該言語の習熟をはかる。

スポーツ科学

人間の身体の仕組みやスポーツなどの身体運動が健康の保持増進に果たす役割を理解し、生涯にわたって健康的な生活を送るための知識と体験を得る。

キャリア形成支援

自己認識を深め、学生から社会人へのキャリア展開の多様な可能性を認識し、社会との関わりにおいて将来を構想する力を獲得する。

【卒業に必要な最低単位数】

下表内の数値は、各学科が科目区分ごとに指定している〔必修・選択必修科目〕の卒業要件単位数を表しています。卒業要件科目として指定される〔必修・選択必修科目〕は、所属する学科ごとに異なるため、該当ページをよく読んで履修してください。

学科	國學院科目群				汎用的スキル科目群				専門教養科目群					総合科目群				合計
	神道と文化	國學院の学び	日本文化を知る	Japan Studies	日本語	英語	数的推論	情報処理	人文学	法学・政治学A	法学・政治学B	経済学A	経済学B	自然科学	導入科目	外国語	スポーツ科学	
初等教育学科	2					8									4		2	
健康体育学科	2					8									4		2	
子ども支援学科	2					8									4		3	

Ⅱ. 共通教育プログラムの履修方法

【人間開発学部】

1. 國學院科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
神道と文化	1	2	2 単位必修	
國學院の学び	1	2		() 内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
日本文化を知る	1	2		
Japan Studies	2	2		8 単位まで複数履修可

2. 汎用的スキル科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

科目区分	授業科目	学年	単位	履修方法	備考
日本語	基礎日本語	1	2		1・2 年次のみ履修可。ただし、() 付きの授業科目は除く
英語	英語Ⅰ	1	2	8 単位必修	習熟度別クラス
	英語Ⅱ	1	2		
	英語Ⅲ	2	2		
	英語Ⅳ	2	2		
	発展英語	2	2		レベルが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
数的推論	数的推論	1	2		
情報処理	コンピュータと情報	1	2		() 付きの授業科目のみ履修可、() 内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可

3. 専門教養科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

人文学 ～人類の叡智～＜文学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
民俗学史Ⅰ	2	2		
日本古典文学研究ⅠA	2	2		
中国学入門	1	2		
比較文化論Ⅰ	2	2		
比較文化論Ⅱ	2	2		
日本文化史Ⅰ	2	2		
日本文化史Ⅱ	2	2		
論理学A	1	2		
西洋美術史ⅠA	1	2		
日本美術史A	1	2		
美学A	2	2		

法学・政治学A ～シチズンシップ教育～＜法学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
法学（日本国憲法）	1	2		
法と社会参加	1	2		() 内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可。（ただし、それぞれ計8 単位まで）
政治と社会参加	1	2		
行政と市民生活	1	2		
法教育入門	1	2		

法学・政治学 B ～社会の理解～＜法学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
法学（日本国憲法）	1	2		
国際政治入門	1	2		
政治哲学入門	1	2		
比較政治入門	1	2		
地域研究入門	1	2		
比較法入門	1	2		
犯罪学入門	1	2		

経済学 A ～経済と経営～＜経済学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
日本の経済	1	2		
世界の経済	1	2		
経済史の基礎	1	2		
経済理論入門	1	2		
会社入門	1	2		
経営理論入門	1	2		
簿記と財務報告 A	1	2		

経済学 B ～社会のとらえ方～＜経済学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
日本の経済	1	2		
調査研究入門	1	2		
アンケート調査入門	2	2		
社会保障の基礎	2	2		
ジェンダーと経済	1	2		
環境・開発問題入門	2	2		
地域社会問題入門	2	2		

自然科学 ～環境と自然～＜人間開発学部開講科目＞

授業科目	学年	単位	履修方法	備考
地球環境と人間	1	2		
宇宙物理学入門	1	2		
情報科学入門	1	2		
科学的思考法	1	2		
人類学入門	1	2		

4. 総合科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

科目区分	授業科目	学年	単位	履修方法		備考
				初等教育 健康体育	子ども支援	
導入科目	導入基礎演習	1	2	2 単位必修	2 単位必修	
	総合講座（集団宿泊研修）	1	2	2 単位必修	2 単位必修	
外国語	入門ドイツ語	1	2			
	ドイツ語Ⅰ	1	2			
	ドイツ語Ⅱ	1	2			
	ドイツ語Ⅲ	2	2			
	ドイツ語Ⅳ	2	2			
	入門フランス語	1	2			
	フランス語Ⅰ	1	2			
	フランス語Ⅱ	1	2			
	フランス語Ⅲ	2	2			
	フランス語Ⅳ	2	2			
	入門中国語	1	2			
	中国語Ⅰ	1	2			
	中国語Ⅱ	1	2			
	中国語Ⅲ	2	2			
	中国語Ⅳ	2	2			
	入門韓国語	1	2			
	韓国語Ⅰ	1	2			
	韓国語Ⅱ	1	2			
	ロシア語Ⅰ	1	2			
	ロシア語Ⅱ	1	2			
	スペイン語Ⅰ	1	2			
	スペイン語Ⅱ	1	2			
	イタリア語Ⅰ	1	2			
	イタリア語Ⅱ	1	2			
	ポルトガル語Ⅰ	1	2			
	ポルトガル語Ⅱ	1	2			
留学英語	1	2			単位認定は同一言語内において 2 科目 4 単位まで （同一留学先に複数回参加した 場合、二度目以降は単位認定対 象外） 詳細は P9 参照	
留学ドイツ語	1	2				
留学フランス語	1	2				
留学中国語	1	2				
留学外国語	1	2				
スポーツ 科学	スポーツ実技 A	1	1	2 単位必修	1 単位必修	
	スポーツ実技 B	1	1		履修不可	
	スポーツ科学論	1	2		2 単位必修	
	生涯スポーツ実技	1	1			8 単位まで複数履修可
キャリア 形成支援	ライフデザイン※	1	2			（ ）内のテーマが異なれば同 一の授業科目でも複数履修可
	インターンシップ	2・3	1・2			授業内容により単位数が異な る。4 年次の履修不可

※ 「ライフデザイン（スタートアップ）」の履修は一度限りであり、単位修得の可否にかかわらず二度目の履修をすることはできない。また、原則として2年次以降に履修することはできない。